

電力データを活用した空き家実態調査について

1 目的

市町村による実態調査は、現状、調査手法（業務委託、職員のみ・自治会への協力等）や判断手法（水道閉栓、外観目視、近隣聞き取り等）、実施時期も様々である。

一方、令和 2 年度の電気事業法改正により、新たな実態調査の手法として、電力データの活用が可能となった。

そこで、今年度実態調査を実施する 3 市町をモデル地区として、電力データ活用の有効性等について検証することで、今後の実態調査の手法や判断手法等について検討するものである。

2 取組内容

- ・ 空き家実態調査との比較検証
 - ・ 電力データ活用の有効性の実証
 - ・ 電力データの活用手法の検討（実態調査の手法の検討）
 - ・ 地域の状況に応じた実効性のある対策の検討
 - ・ 次期モデル事業の検討
- など

3 スケジュール（予定）

7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
	● オリエンテーション（概要説明）					
	3 市町による実態調査及びデータ整理（推定空き家情報も含めて）					
				専門部会にて検討		
					まとめ	● 報告（連絡会議）

4 専門部会会員

県及びモデル 3 市町（狭山市、草加市、小鹿野町）

参加希望市町村（今後募集 特に R6 や R7 に実態調査を予定している市町村は是非ご参加ください）